

# 消 防 統 計 資 料

( 令 和 6 年 上 半 期 )

令和6年度全国統一防火標語

**守りたい 未来があるから 火の用心**



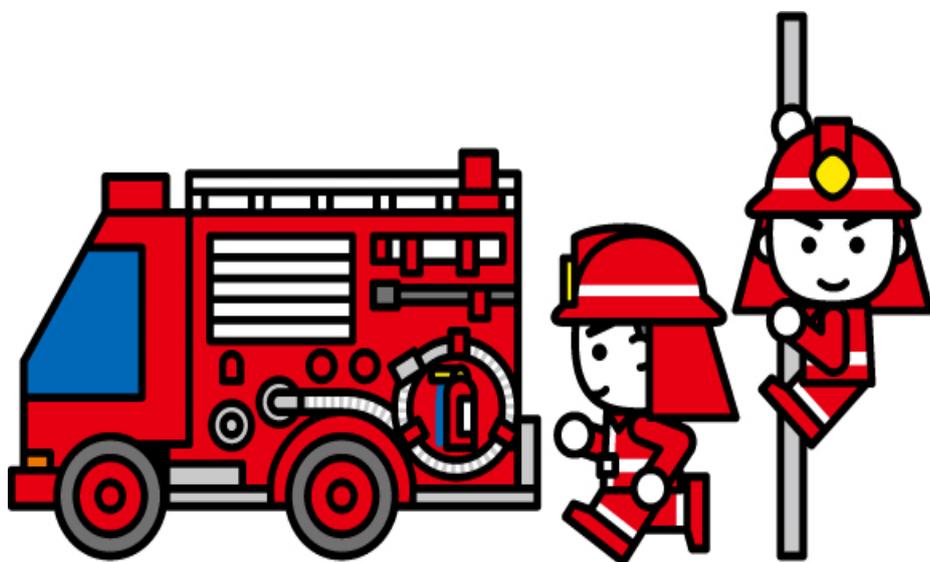
Niihama City Fire Department  
新居浜市消防本部

〒792-0025 新居浜市一宮町一丁目5番1号

TEL 0897 (34) 0119 FAX 0897 (34) 1189

<http://www.city.niihama.lg.jp/>

火災  
F i r e



# 目 次

	火 災		ページ
1.	火災概況		1
2.	火災種別		2
3.	建物火災における住宅火災の割合		2
4.	月別・原因別火災件数及び損害額		3
5.	校区別火災件数		4
6.	初期消火状況		5

	救 急		
1.	地区別救急出動件数の推移		6
2.	事故種別救急出動状況・年齢区分別搬送人員状況		7
3.	(1) 応急手当普及啓発活動		8
	(2) 救急車適正利用のお願い		8
	(3) 救急支援情報サービス		8

	救 助		
1.	救助概況		9
2.	救助統計		9
	・地区別出動件数		
	・事故種別出動件数		



# 火災

## 1. 火災概況

新居浜市における令和6年上半期の火災件数は、昨年より5件多い18件です。これは、10日に1件の割合で火災が発生したことになります。

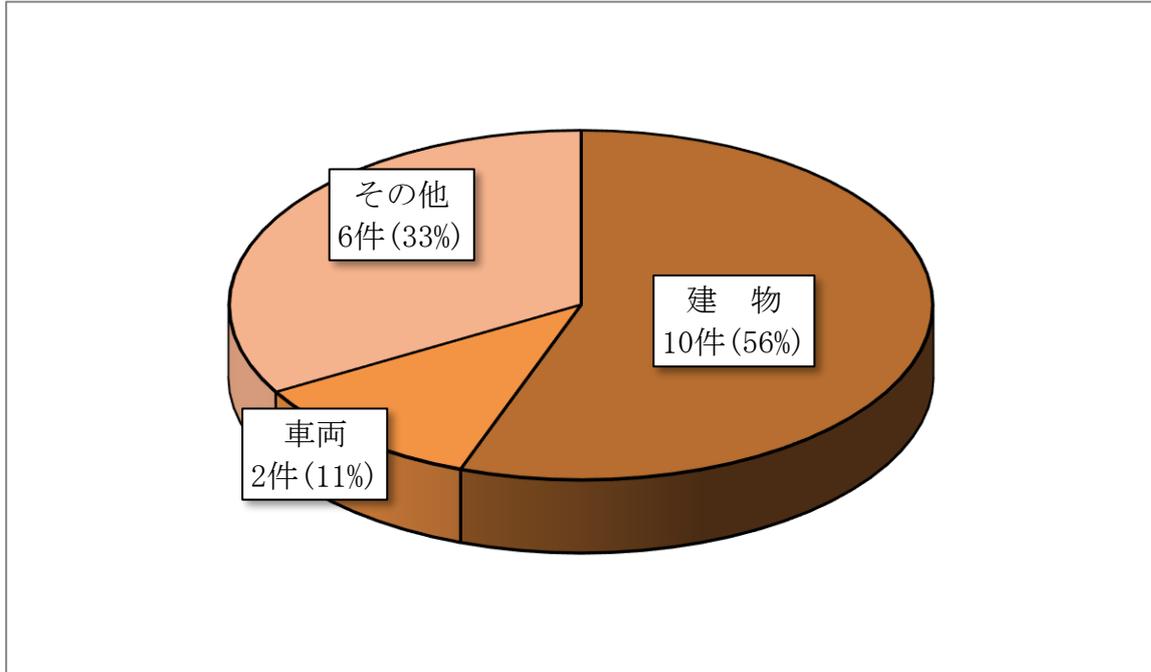
火災による死者は0人で前年と同様0人で、負傷者は2人で前年より1人増加しています。

また、火災による損害額は、7,153千円となっています。

区 分		単 位	令 和 6 年	令 和 5 年	増 減
火 災 件 数	火 災 件 数	件	18	13	5
	建 物	〃	10	7	3
	林 野	〃	0	1	▲ 1
	車 両	〃	2	1	1
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	6	4	2
	爆 発	〃	0	0	0
損 害 額	合 計	千 円	7,153	22,757	▲ 15,604
	建 物	〃	6,388	22,420	▲ 16,032
	林 野	〃	0	0	0
	車 両	〃	700	116	584
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	65	221	▲ 156
	爆 発	〃	0	0	0
焼 損 棟 数	合 計	棟	13	24	▲ 11
	全 焼	〃	4	6	▲ 2
	半 焼	〃	0	1	▲ 1
	部 分 焼	〃	1	9	▲ 8
	ぼ や	〃	8	8	±0
焼 損 面 積	建 物 焼 損 床 面 積	m <sup>2</sup>	247.00	572.45	▲ 325.45
	建 物 焼 損 表 面 積	〃	21.34	79.20	▲ 57.86
	林 野 焼 損 面 積	a	0.00	0.00	0.00
死 傷 者	死 者	人	0	0	0
	3 0 日 死 者	〃	0	0	0
	負 傷 者	〃	2	1	1
り 災	世 帯 数	世 帯	7	13	▲ 6
	人 員	人	19	26	▲ 7

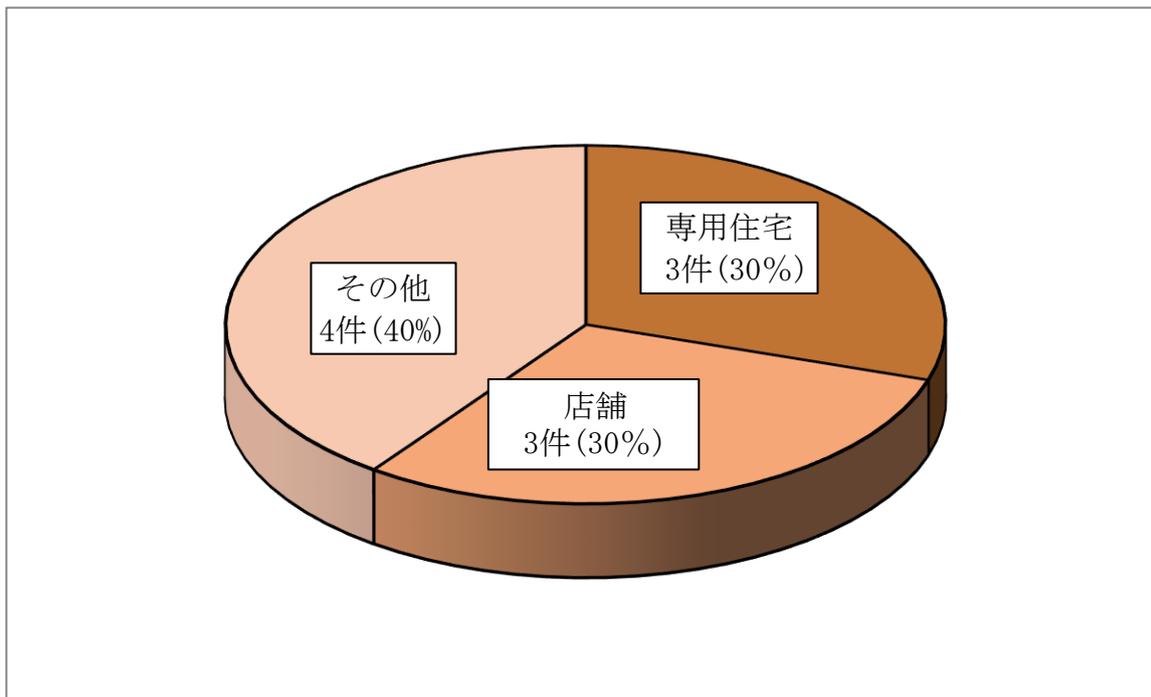
## 2. 火災種別

令和6年上半期の火災件数（18件）のうち、建物火災（10件）は約56%を占めています。



## 3. 建物火災における住宅火災の割合

住宅での火災は、建物火災全体の約30%となっています。



#### 4. 月別・原因別火災件数及び損害額

月別の火災件数は、1月に最も多く発生しており6件、次いで2月が4件となっています。

出火原因は、火入れが4件で最も多く、次いでたばこ、電気機器が各2件、炉、こたつ、排気管等が各1件となっています。

原因別	月別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月
火災件数		18	6	4	2	1	2	3
サイレン吹鳴件数		3	1	1				1
損害額(千円)		7,153	4,300	2,082	200	16	12	543
たばこ		2	2					
炉		1		1				
こたつ		1	1					
排気管		1			1			
電気機器		2			1	1		
電気装置		1					1	
溶接機・切断機		1						1
火入れ		4	1	1			1	1
放火の疑い		1						1
その他		3	2	1				
不明		1		1				

## 5. 校區別火災件数

校区単位での火災発生件数です。

- ・川西地区：5件
- ・川東地区：4件
- ・上部地区：9件

大島
0

川西地区			川東地区		
若宮	宮西	新居浜	高津	浮島	垣生
0	2	0	0	1	0
惣開	金子		神郷		多喜浜
3	0		1		2
金栄					
0					

上部地区			
大生院	中萩	泉川	船木
1	4	1	2
	角野		
	1		
別子			
0			

※若宮及び大島は旧小学校区です。

## 6. 初期消火状況

令和6年上半期に発生した18件の火災に対し、8件の火災で初期消火が行われ、そのうち、4件で火災の消火に成功しています。

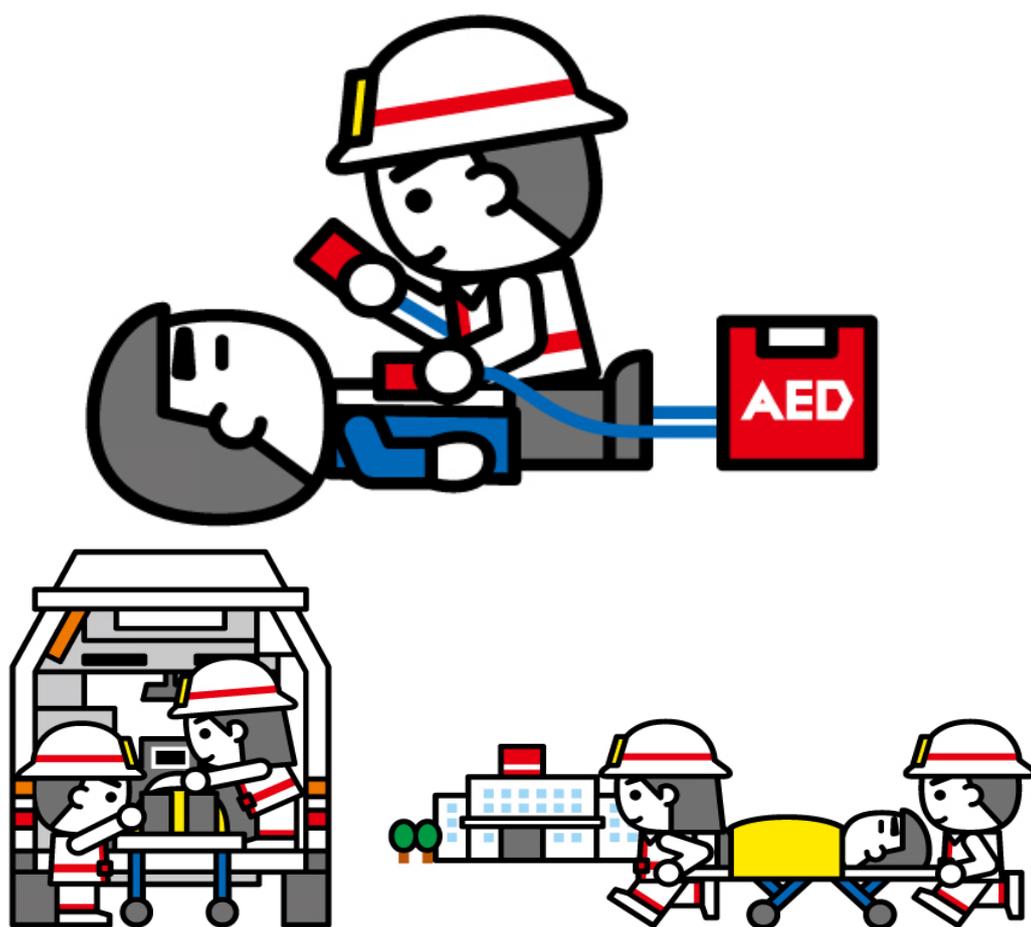
次に初期消火に用いた方法をみると、最も多く使用されたのが『粉末消火器』、『水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた』、『その他』が各2件、次いで、『水バケツ』、『屋外消火栓設備』、が各1件となっています。

火 災 件 数	18 件 (%)
初期消火実施 (構成比)	8 件 ( 44% )
成功件数 (構成比)	4 件 ( 50% )
初期消火なし (構成比)	10 件 ( 56% )

初 期 消 火 方 法	実施件数 (消火成功件数)
水バケツ	1 ( 1 )
粉末消火器	2 ( 0 )
屋外消火栓設備	1 ( 0 )
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	2 ( 1 )
その他	2 ( 2 )
合 計	8 ( 4 )

# 救急

Emergency

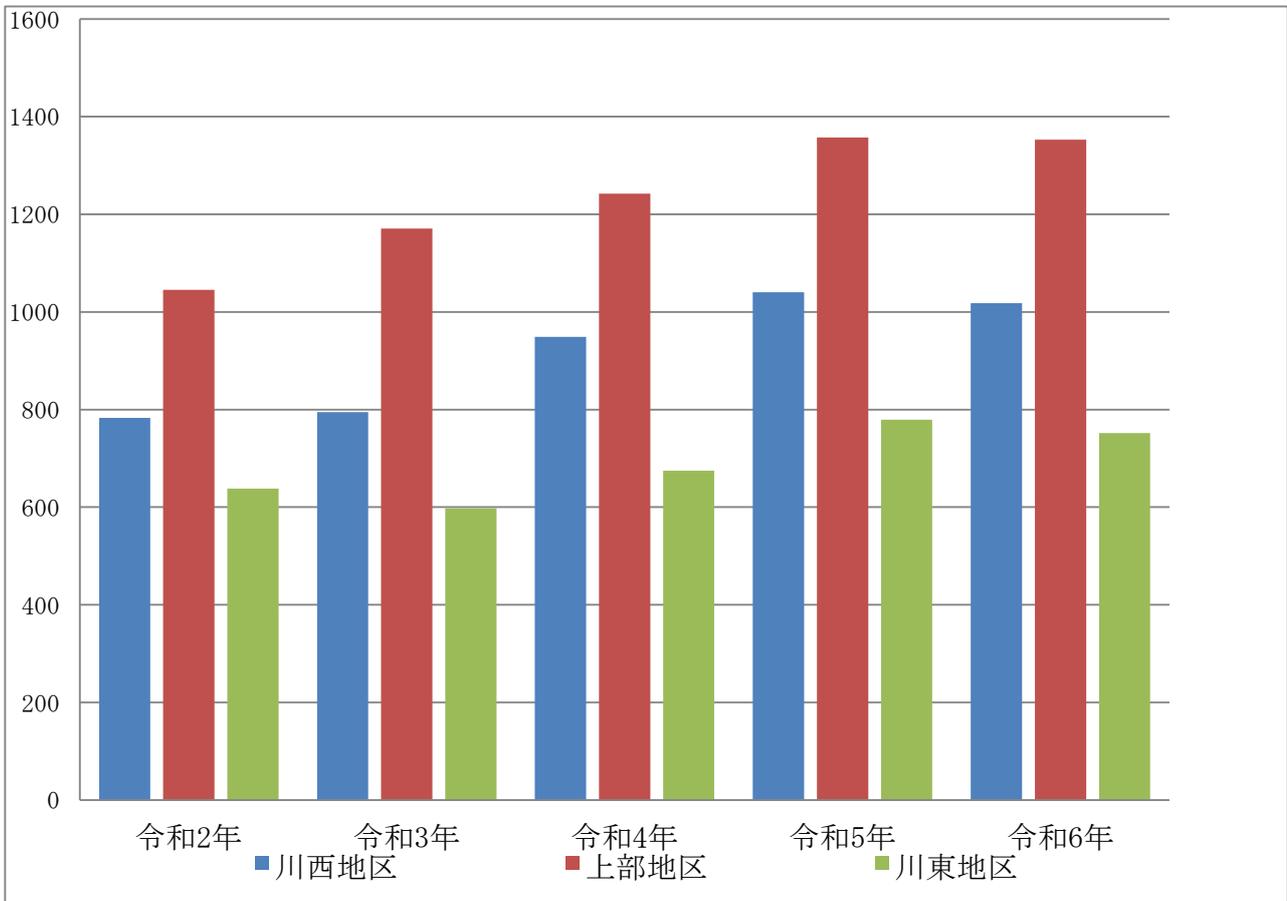


1. 地区別救急出動件数の推移
2. 事故種別救急出動状況・年齢区分別搬送人員状況
3. (1) 応急手当普及啓発活動  
(2) 救急車適正利用のお願い  
(3) 救急支援情報サービス

# 救急

## 1. 地区別救急出動件数の推移

令和6年上半期における救急業務の実施状況は、出動件数が3,128件で1日に約17.2件出動していることとなります。その内、医療機関への搬送が必要な傷病者（搬送人員）の数は2,936人でした。地区別に見ますと上部地区の救急件数が高く推移しています。今後、数年間は同じ傾向になるものと考えます。



地区	年	令和2年 上半期	令和3年 上半期	令和4年 上半期	令和5年 上半期	令和6年 上半期
川西地区		783	794	950	1040	1018
上部地区		1045	1172	1241	1357	1353
川東地区		638	598	674	779	752
市外		0	0	1	2	5
合計		2466	2564	2866	3178	3128

## 2. 事故種別救急出動状況・年齢区分別搬送人員状況

搬送人員を事故種別で見ると、急病が1,926人(65.6%)、交通事故が170人(5.8%)、一般負傷が467人(15.9%)、その他が373人(12.7%)の割合となっており、急病の占める割合が依然高いことが伺えます。また年齢区分の内訳から、高齢者(65歳以上)の搬送が67.3%を占めており、高齢化の進行とともに救急出動件数は高い水準を維持することが見込まれます。

事故種別救急出動状況

(令和6年上半期)

	合計	月 別					
		1	2	3	4	5	6
出動件数	3,128	642	493	522	446	503	522
搬送人員	2,936	600	449	482	428	477	500
火災	出動件数	2	1		1		
	搬送人員	2	2				
自然災害	出動件数						
	搬送人員						
水難	出動件数						
	搬送人員						
交通事故	出動件数	176	28	26	27	28	33
	搬送人員	170	27	24	26	27	32
労働災害	出動件数	15	3	4	1	3	2
	搬送人員	15	3	4	1	3	2
運動競技	出動件数	9			1	2	1
	搬送人員	9			1	2	1
一般負傷	出動件数	490	113	66	82	77	75
	搬送人員	467	105	62	77	74	74
加害	出動件数	12	1	3	3	2	1
	搬送人員	11	1	3	3	2	1
自損行為	出動件数	28	6	5	4	5	5
	搬送人員	16	4	2	2	4	3
急病	出動件数	2,058	432	321	357	284	325
	搬送人員	1,926	405	291	329	272	303
その他	出動件数	338	58	68	46	45	61
	搬送人員	320	53	63	43	44	60

年齢区分別搬送人員状況

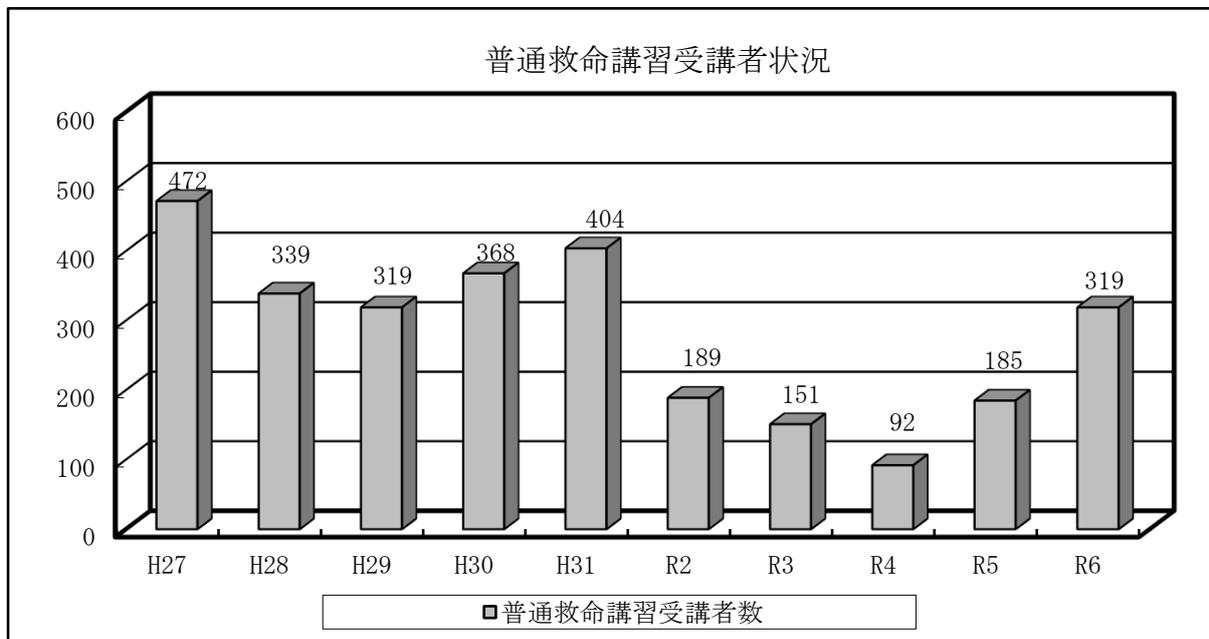
(令和6年上半期)

年齢区分 事故種別	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病		86	40	442	1358	1926
交通		2	19	88	61	170
一般負傷	1	26	15	63	362	467
その他	8	7	19	145	194	373
合計	9	121	93	738	1975	2936

### 3. (1) 応急手当普及啓発活動

救命率の向上を図るには、通報から現場に救急車が到着するまでの間（平均9.2分）、バイスタンダー（傷病者のそばにいる人）による応急手当が必要不可欠です。本市では市民を対象に救命講習会を開催しています。令和6年上半期中に一般救命講習は17回で受講者数は409名、入門コースは4回で受講者数は65名、普通救命講習は9回で319名が受講されています。

\*感染症の流行により、救命講習の開催を見合せている期間(R2～R4)あり。



### 3. (2) 救急車適正利用のお願い

近年、救急車の出動件数は増加傾向にあり、高齢者の進展などにより今後も増えていくことが見込まれています。救急車の出動件数が増えることで、救急車が現場に到着するまでに要する時間も伸びてきており、一刻を争う事態が発生したとき、救急車の到着が遅れてしまうおそれがあります。えひめ救急電話相談（#7119）を使っていただくことで、緊急性が高いときには救急車の要請を、そうでないときは症状等に応じたタイミングで医療機関を受診することを支援します。こうすることで、緊急性の高い傷病者の元にいち早く救急隊が駆けつけることができるようになります。えひめ救急電話相談（#7119）は、地域の限られた医療資源の一つである救急車を有効に活用する一翼を担っています。救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していききたいと思います。（詳細は、下記のホームページをご参照ください）

### 3. (3) 救急支援情報サービス

#### ①えひめ救急電話相談「#7119」について

<https://www.pref.ehime.jp/h15300/23syoubou/7119.html>

#### ②愛媛県子ども医療相談「#8000」について

[https://www.pref.ehime.jp/h20150/kyukyu\\_syo ni/syonikyukyu.html](https://www.pref.ehime.jp/h20150/kyukyu_syo ni/syonikyukyu.html)

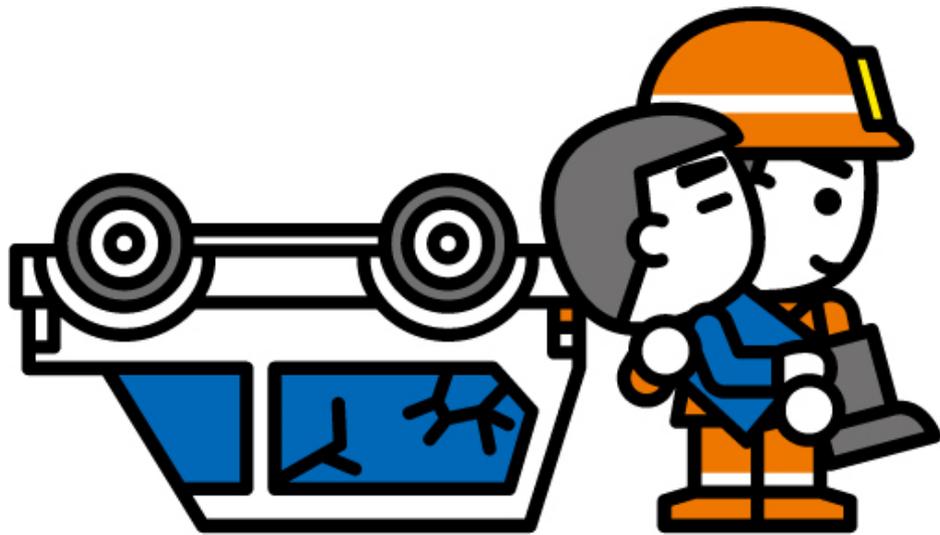
#### ③総務省消防庁「Q助」案内サイト

<https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/appropriate003.html>



# 救助

R e s c u e



## 1. 救助概況

令和6年上半期の救助概況は、出動件数10件、活動件数9件で、去年同期と比較すると、出動件数は9件減少、活動件数は2件減少となっています。また救助人員は、10人で去年同期と比較すると3人減少しています。

社会構造の変化に伴い、救助活動は、火災のみならず、地震、風水害、交通、水難事故等、広範囲に及んでいます。このような状況の中、高度救助資機材の整備・活用を図るとともに、各種訓練により、隊員の育成・レベルアップに努め、幅の広い災害事案に対応できるよう取り組んでいきます。

## 2. 救助統計

